

# マイウェイ

No.44  
2001

鎌倉切通物語  
監修 八幡義信 写真 松尾順造

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成13年12月発行 ● 発行人 平澤貞昭 ● 編集人 清水照雄 ● 発行財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171 (直通) ㈱西北社 大日本印刷㈱



# 鎌倉切通 物語

近年鎌倉では、世界遺産登録に向けた調査により中世の城塞都市としての数々の大規模土木遺構が確認されています。鎌倉の後背地の山々は自然の要害ですが、主要な場所に切通が造られ、軍事及び物流の両面から重要な意味を持つてきました。切通は、中世鎌倉の面影を色濃く残す散策路でもあります。

## よみがえる中世の鎌倉

鎌倉女子大学教授 八幡義信

日本の歴史上初めて武家政権を確立した鎌倉。源頼朝によって町造りの基盤が固められた鎌倉は、北条執権政治の展開とともに東アジアとの交流を通して宋元文化の強い影響の下に、中世国際都市として発展しました。三十余年に及ぶ考古学的発掘調査



釈迦堂口切通（大町方面から）。巨大な岩山をくり抜いて造られた洞門。現在は通行止め。

研究の目覚ましい進展により、『吾妻鏡』や『太平記』に垣間見られる中世鎌倉の様子が明らかになりつつあります。

源頼朝は、二十年間の鎌倉生活の中で、大倉の居館を取り囲むかのように三つの大寺院を建立しました。現存するのは鶴岡八幡宮ですが、二階堂という地名でなじみの深い永福寺跡は、史跡環境整備にむけた境内の調査が完了し、幻の大伽藍の全貌が明らかになりました。前面に苑池を配した三堂形式の景観は、頼朝独自の構想に基づいた壮大なもので、その権勢を示すにふさわしい伽藍でした。

源家将軍三代の後、幕府の実権は北条氏に引き継がれました。特に北条泰時の時代には、幕府法五十一箇条が制定され、新し

い体制のもとで中世都市鎌倉は飛躍します。その一つは三方を囲む丘陵を開削して造られた「七切通」などの交通面での整備であり、今一つは材木座海岸に築かれた利賀江島と、金沢北条氏によって六浦津に築かれた港湾施設でした。

七切通は、京・鎌倉間を結ぶ東海道や関東各地とを結ぶ鎌倉道（上・中・下）の出入り口に当たり、鎌倉防禦上での重要な意味がありましたので、その地域には北条得宗家・金沢・名越・常葉（盤）・極楽寺・大仏など北条一族の居館が配置されました。鎌倉の世界遺産登録に向けた大掛かりな緊急調査によって、切通をはじめとする中世の城塞都市としての数々の大規模土木遺構が確認されています。

釈迦堂口切通内部のやぐら。



# 鎌倉七切通マップ

## ◆巨福呂坂切通

鎌倉駅から江ノ電バス大船駅行で「八幡宮裏」下車。左に旧道入口があるが、途中で通行止。※写真は切通入口付近。

## ◆亀ヶ谷切通

鎌倉駅から江の電バス大船駅行で「上町」下車。少し戻って長寿寺へ。山門に標識あり。※写真は、扇ガ谷方面から。

## ◆仮柱坂切通

鎌倉駅西口からJRに沿って北鎌倉方面へ。寿福寺、英勝寺を過ぎて海蔵寺手前に標識あり。※写真は、源氏山公園の方から。

## ◆大仏切通

鎌倉駅から江ノ電バス藤沢駅行、または鎌倉駅から京急バス鎌倉山・大船駅行で「火の見下」下車、民家の間の道を入れて道なりに登坂。※写真は、切通山頂中間地点で。

## ◆極楽寺坂切通

江ノ電「極楽寺駅」から長谷方面へ歩くと右手に成就院へ登る道がある。この成就院がある位置がもとの切通の高さ。※写真は、現在の極楽寺坂。

## ◆名越切通

①逗子駅から京急バスハイランド行で「久木5丁目」下車、JRに沿って法性寺山門を目指す

②鎌倉駅から京急バス小坪經由逗子駅行で「亀ガ丘」で下車、前方コンビニエンスストア手前を左折し、そのまま登坂直進。※写真は、横須賀線トンネル上の切通。

## ◆朝夷奈切通

鎌倉駅から京急バス金沢八景駅行で、または太刀洗/鎌倉霊園正面前行で「十二所神社前」下車、神社反対側の旧道を登坂。※写真は、切通入口付近。



# 切通について

鎌倉市教育委員会生涯学習部文化財課  
担当係長 玉林美男

鎌倉は三方を山で囲まれ、一方を海に面した地といわれています。しかし、鎌倉の領域を地図で確認すると、東に隣接する横浜市金沢区朝比奈町は江戸時代までは相模国鎌倉郡峠村で、明治三十年五月に鎌倉町から分離されるまでは鎌倉の領域内でした。峠村からは待従川が六浦湾に流れ込み、六浦湾から船が入ることが可能であったと推定されます。このことから、鎌倉は東京湾と東京湾の両方に「みなと」を持つ、相模湾と東京湾を結ぶ海上交通の結節点であったことが分かります。

こうした場所であるからこそ、源頼義以降源氏の拠点として伝えられ、鎌倉時代の首都となったと考えられるのです。

陸路で鎌倉に入る場合は三方を囲む山を通過する必要があります。山を通過する部分に山を掘り切った道を通しているのが切通です。切通の幅は狭いところで二メートル前後で、くねくねと曲がったり、直角に曲がったりして前が見通せなくなっていたり、上り下りの勢いをそくように造られています。山を掘り切った部分は垂直の崖になっており、人が登れないようになっています。また、切通周辺には平坦地(平場)や尾根を掘り切った掘割、山裾を垂直に切り落とした切岸等の人工地形が見られます。このことから、切通は通行の便を図ると共に、軍勢の侵入を阻む機能を持たせ



法性寺の裏の墓地から見る名越の大切岸。垂直に切り落とされた岩肌は見る者を圧倒する。

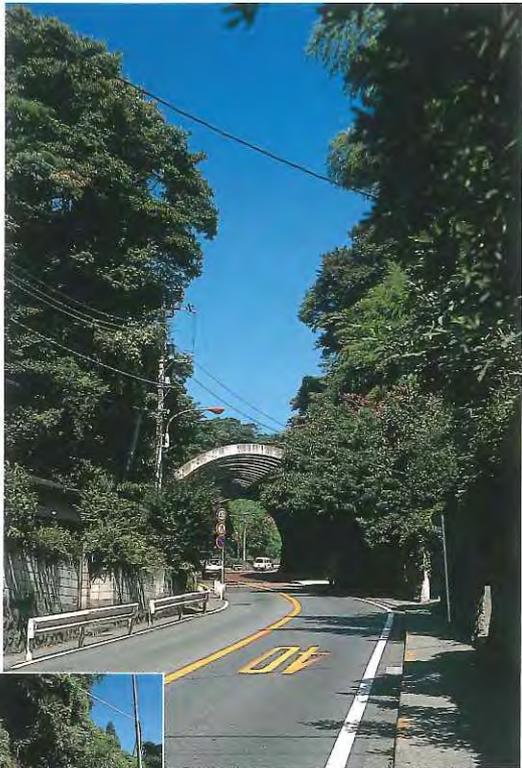
ていたと説かれています。いざ合戦という時には岩や切り倒した木で切通を塞ぎ、尾根の上の平場に陣取って敵の侵入を防いだことでしょう。名越切通の大切岸(写真上)はそうした遺構が一望できる場所として有名です。

鎌倉の出入り口は、七口あるいは七切通といわれています。西から極楽寺坂・大仏切通・飯粧坂・亀ヶ谷坂・巨福呂坂・朝比奈切通・名越切通の七つですが、このほかに稲村方崎路・小坪坂があります。これらの道は鎌倉と外界を結ぶ幹線道路であり、特に重要なのは鎌倉と京を結ぶ京・鎌倉往還や鎌倉街道上の道・中の道・下の道で、京・鎌倉往還は今の東海道筋に当たり、極楽寺坂・稲村方崎路

等から藤沢へ繋がっていました。鎌倉街道については諸説あるようですが、上の道は飯粧坂から、中・下の道は亀ヶ谷坂・巨福呂坂から出た道といわれています。それぞれ武蔵から上野・信濃、武蔵から下総・下野等、鎌倉武士の本拠地に通じる道でした。

鎌倉は、武家が造った現存する唯一の政権都市の遺跡として、世界遺産登録をめざしています。切通周辺に代表される山稜に存在する歴史的遺産は、山を掘って造られており、他の都市が土や岩を積み上げて造ったのに対して特徴的です。鎌倉は山を掘って造った武家の政権都市であり、他の都市と比べて比類なき特色を持っていると考えています。

## 巨福呂坂切通



上/現在の巨福呂坂。左/旧巨福呂坂切通(国史跡)。頂上付近に道祖神が。鶴岡八幡宮から山ノ内へ至る主要道として造られたが、現在は途中で通行止め。

## 『吾妻鏡』と『太平記』に見る鎌倉切通 七切通を探访する

鎌倉切通は、『吾妻鏡』と『太平記』の中に登場する。鎌倉市史には「鎌倉の城郭について沿革の章で鎌倉谷を城郭とみたてたのは、源頼朝以降のこと。『吾妻鏡』はこのことについて治承四年九月、安房にいた頼朝に千葉常胤は、鎌倉が要害の地であることを述べて、鎌倉に本拠を移すことをすすめた」と記述されている。その要害の地に切通が造られたのである。

切通が戦場の舞台となったのは、『太平記』に詳しい。『太平記』巻十「鎌倉合戦の事」では、新田義貞が麾下の軍勢六十



扇ガ谷から佐助を経て藤沢に至る主要道として造られた仮粧坂切通(国史跡)(扇ガ谷方面から登る)。

仮粧坂切通



剥き出しになった岩肌がかつての姿をしのばせる(葛原岡神社方面に登る)。



上と左ノ山ノ内と扇ガ谷を結ぶ亀ヶ谷坂切通〔国史跡〕(山ノ内方面から)。樹木に覆われ、掘割した断層が見え、鬱蒼とした雰囲気が漂う。

に山内(やまのうち)に道路を造るよう沙汰(さた)をした。その十年後(じゅうねんご)建長二年(けんちやうに) (一一五〇) 六月三日の条には、「北条時頼(きたじょうときより)が六浦道(むつらみち)と一緒にふたたび道路の改修(かいしゆ)を行った」との記述(きじゆ)がある。

二 亀ヶ谷坂切通

建長寺(けんちやうじ)を右手(みぎて)に見て北鎌倉(きたりやまぐら)方面(かたむけ)へ。長寿寺(ちやうじゆ)の谷(や)から左(ひだり)に折れると亀ヶ谷坂(かめがやまか)切通(きりぬき)側の尾根(おしね)までは住宅敷地(ちやうたくじ)が迫(せま)っており、道幅(みち)は狭(せま)く両側(りやうがわ)壁面(かきめん)は切り崩(きりくず)した断層(だんそう)が剥(む)き出し(だ)になっていて切通(きりぬき)し状況(じやうきやう)がよく分かる。『吾妻鏡(ごさいきやう)』建仁二年(けんにに) (一一二二) 十二月十九日(じふくにじゅうくにち)の条(じょう)には、「將軍頼家(げんじゆんより)が鷹場(たかば)を見(み)に山之内(やまのうち)庄(ぢやう)に出(で)かけた帰り道(かへりみち)、亀ヶ谷(かめがや)辺(べ)で落馬(らくば)して古井戸(ふるいど)に落ちた」と記述(きじゆ)されている。往時(むかし)、当所(たうじよ)はかなりの難所(なんじよ)であったと推測(すいさく)される。

一 巨福呂坂切通

八幡宮(やっぴんぐう)裏(うら)石段(いしだん)を下(くだ)って、通り(どおり)を挟(くわ)んで正面(しょうめん)に聖天坂(せいてんか)に行く路(ぢ)があるが、これが旧道(きうぢ)である。鎌倉市史(りやまぐらしじ)によれば、旧道(きうぢ)は聖天坂(せいてんか)をまっすぐに登(のぼ)って尾根(おしね)を切通(きりぬき)し、建長寺(けんちやうじ)前(まへ)にくだった。『吾妻鏡(ごさいきやう)』仁治元年(にじじ) (一一二四) 十月十日(じふににち)の条(じょう)に、「北条泰時(きたじょうたいじ)が安東藤内成光(あんとうとううちなるみつ)左衛門尉(さゑもんゐ)万騎(まんき)を三手(さんて)に分けて、武蔵方面(むさしかた)に位置(いち)する極楽寺坂(ごくらくじ)坂、巨福呂坂(こくふろ)坂、仮粧坂(かじやうか)坂、の三切通(さんきりぬき)を攻める件(くだり)があるが、現地(げんぢ)に立(た)ってみて初めて実感(じつかん)として理解(りやうかい)出来る(出来る)のではないかと考(かん)え、切通(きりぬき)の現場(げんじやう)を探訪(たんぱう)することとした。鎌倉八幡宮(りやまぐらやっぴんぐう)に「切通探訪(きりぬきたんぱう)」の無事(むじ)を祈(いの)って、最初(さいしゆ)に巨福呂坂(こくふろ)坂(か)をめざした。

### 三 仮粧坂切通

JR横須賀線に沿って寿福寺、英勝寺から海蔵寺へ向かう途中に仮粧坂への道を見つけることが出来る。

「春の、桜色にけぶる源氏山公園も見事だが木々が錦に染まる秋にこそ是非訪りたい。そこから続く鎌倉七切通の一つ化粧坂が自然の豊かな恩恵によって鮮やかに「化粧」されるからだ。普段、生い茂った樹木が陰影に富んだ幽玄の世界へ誘

### 大仏切通



上ノ長谷から膝沢に至る主要道として造られた大仏切通(国史跡)(バス停「火の見下」から登る)。左は、反対側の大仏方面から見た切通。

切通の途中にある平場(平坦地)。



うこの道も、赤や黄の葉が足元でかさかさとして軽やかな音をたてる頃になると、頭上にはるか、高くなつた秋の空が見えるようになる。谷を切り開いて造られた鎌倉時代の軍事要塞もこの季節だけはやすらかだ」とは、『立原 幹と歩く』立原正秋の鎌倉『立原 幹著』の一節。

『太平記』巻十一「鎌倉合戦の事」によれば、「新田義貞の本隊は、堀口・山名・岩松・大井田・桃井・里見等の一族達を前後左右に配置して其の勢五十万七千余

騎、仮粧坂へ向かわせた。一方鎌倉勢は、これに備えて、金沢貞将に仮粧坂を、大仏貞直に極楽寺坂を固めさせ、赤橋守時に須崎を守らせた」とある。

時に、元弘三年(一一三三)五月十八日のこと。

当地を訪れた時は、夏がまだ盛んで、切通はいちめん緑の世界。うるさいほどの蝉の鳴き声は、まるで「兵どもの合戦の雄たけび」のようだった。

### 四 大仏切通

藤沢・鎌倉間のバス停「火の見下」で下車し、民家の狭い路地を行くと、いきなり

急峻な山岳が立ちはだかる。大仏切通だ。

鎌倉市史によれば「現大仏坂トンネル北上方に残るもの。底幅二m余の狭い切通が殆ど。直角に尾根を深さ七―八m切り割っている。切通の外側に当たる部分の山腹も切った様に切られている。(略)切通上附近の屋根は削平され、又山腹にも削平部分が見られる。これ等はここが陣地となった場合、防禦軍が陣する地点であり、攻撃に對して抵抗する場所である」と記述されている。

大仏切通は、距離は長くはないが、険しさはかなりのもので、朝夷奈切通の水分を含んだ岩盤と違って、乾いた土に朽木が倒れ、坂道の岩石は鋭く突出して容易に人馬を通さない。現在、トンネル越えは出来ない。

五 極楽寺坂切通

本誌の表紙は、成就院山門前から鎌倉の海と街並みを見ている。鎌倉市教育委員会の報告書には、「極楽寺切通の開墾年は不明であるが、『吾妻鏡』建長四年（一二五二）將軍宗尊親王が稲村カ崎経由で鎌倉入りをしていることから、切通の開墾はその後と考えられる」との文章がある。

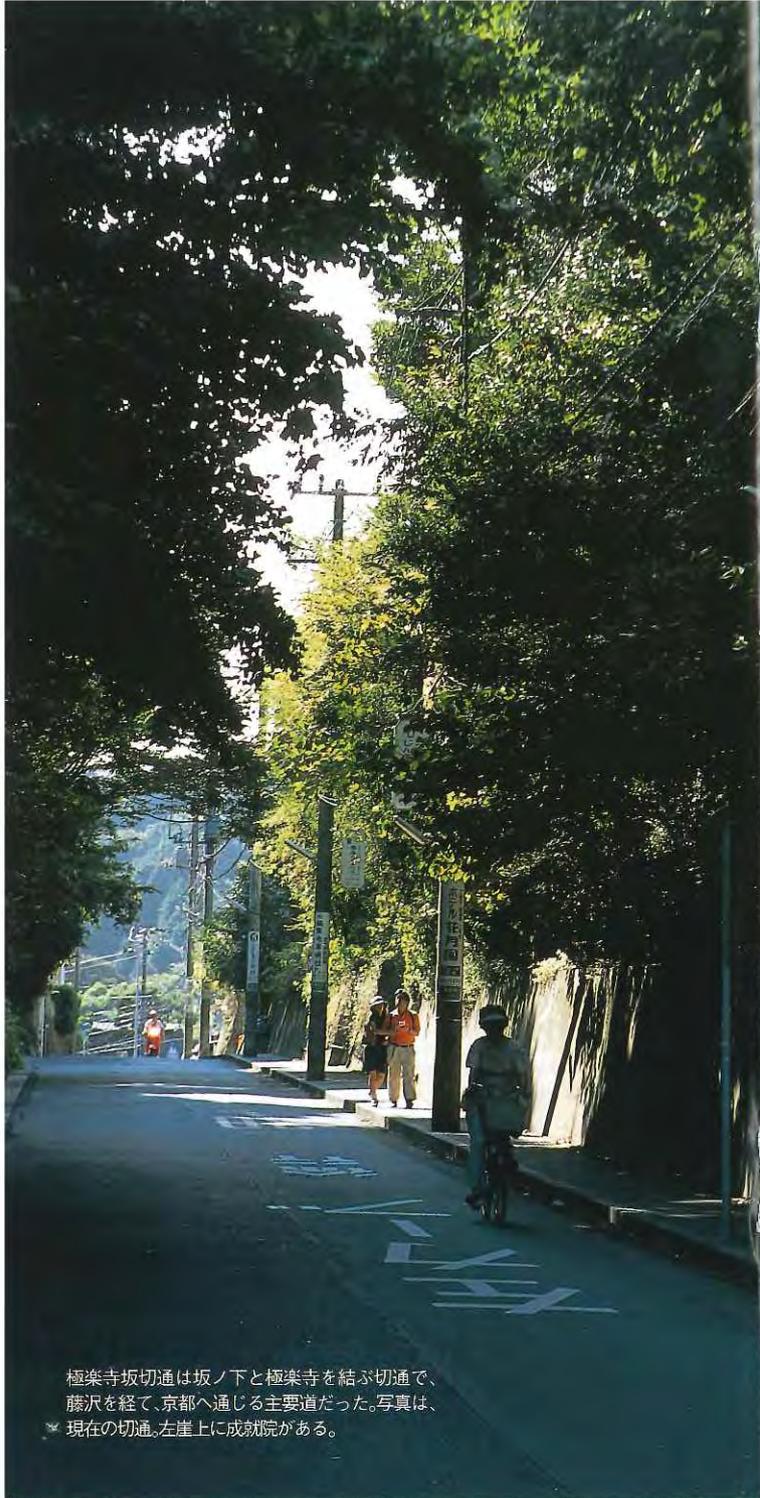
鎌倉市史の記述は、「この成就院がある位置がもとの切通の高さだったと考えられる。現在のものは、これをずっと切り低め、幅を拡げたもの。極楽寺坂は防衛施設としては遺

構は少ない。元弘合戦の記事によると、この切通を切りふさぎ全面に逆茂木をならべ、切通を中心にして尾根に兵をならべていた様であるから、特別の防禦施設はなくとも、天然の地形そのものが要害として防衛施設になっていたようである」としている。

往時のことは推測に過ぎないが今日の飯糰坂や大仏切通と比べて、かつての痕跡は目につかない。しかし、『人物太平記（海音寺潮五郎編）』によると「新田勢は容易に攻めきれない。むしろ鎌倉勢の防衛が固く、寄せての大将大館宗氏は、本間山城左衛門尉という者に首を取られ、そのため義貞軍は片瀬・腰越あたりまで退却せざるをえなかった。この知らせを聞いた義貞は急遽二万ほどの軍をさいて極楽寺坂に南下し、鎌倉突入をはかった。



成就院山門。弘法大師が開山し北条泰時が再興したと伝えられる。



極楽寺坂切通は坂ノ下と極楽寺を結ぶ切通で、藤次を経て、京都へ通じる主要道だった。写真は、現在の切通。左崖上に成就院がある。



右と中／鎌倉と逗子を結ぶ名越切通〔国史跡〕。現在は、横須賀線のトンネルの真上にある。右は、法性寺方面からの道。中は、亀ガ丘方面からの道。左／お狭畑の大切岸（法性寺の墓地から）。



法性寺の墓地から逗子、小坪方面を眺める。



鎌倉方の防備は嚴重で突破できない。ここで稲村カ崎のエピソードが起こった」とあり、攻めにいく、守りに堅い場所であったことは事実であろう。

## 六 名越切通

名越切通へは、二／三の登坂口があるが、日蓮宗猿島山法性寺の境内から行くことにした。大切岸を見るためである。

法性寺の建立と猿島山の由来は、『新編鎌倉志 卷七』に書かれてある。

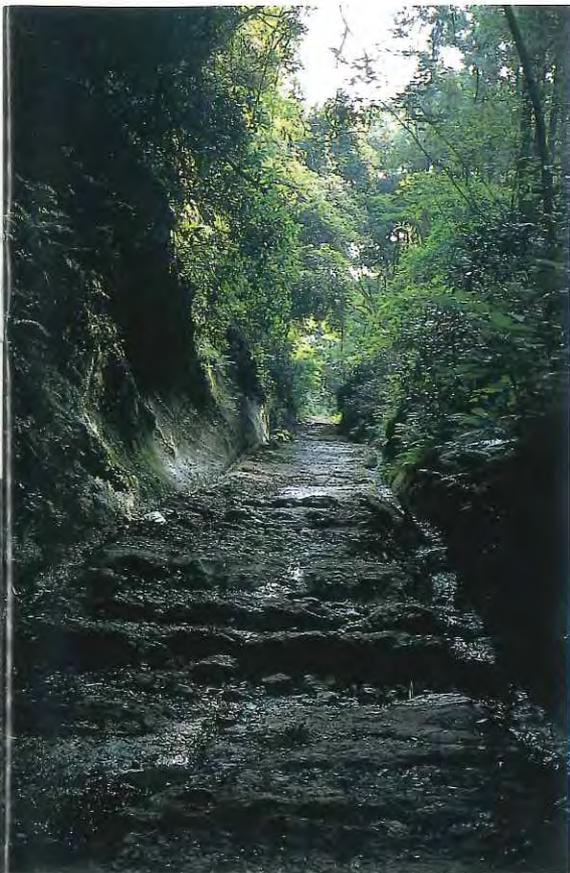
同寺の裏山にある墓地まで登ると眼前に大切岸が現れ思わず息を飲む。「名越の大切岸」である（6頁の写真）。

『新編鎌倉志 卷七』を見ると、「御猿島山は、名越切通の北の山で法性寺の峯

であり、昔この山に山王堂があった。」との記述がある。

一方『吾妻鏡』には、山王堂については、こう記載されている。建長四年二月八日の条で「鎌倉で大火があって、西寿福寺の前、東は名越の山王堂の前、南は和賀江、北は右宮大路の上まで焼失した」とあり、また弘長三年三月十八日の条には、「名越の辺りで火事があり、山王堂も焼亡した」との文言である。

名越切通について『鎌倉史跡事典』（奥富敬之編／新人物往来社）には、「鎌倉と三浦半島を結ぶ軍用道路であり、北条泰時が三浦一族の鎌倉侵入を防ぐ目的で造成したと思われる」との記載がある。



十二所口の崖上(左)並ぶ道祖神。

右と下左／鎌倉と六浦津を結ぶ朝夷奈切通〔国史跡〕。十二所神社前から旧金沢街道の急坂を登ったところで、七切通中、最も険しく、昔の姿に近い。下中／山頂付近の岩盤に彫られた若薩像（磨崖仏）。



七 朝夷奈切通

十二所神社前のバス停から朝夷奈切通を歩いてみた。いきなり、切り立った崖から湧水、雨水が流れ落ちる自然の滝に驚愕、一瞬たじろぐ。前方は、苔むして濡れた岩盤が剥き出しの坂道である。

鎌倉市史には、「朝夷奈切通は、鎌倉切通中最も高い部分にあり、最も要害堅固な地形にある。金沢方面との交通路としての重要性は仁治元年の改修となり、建長二年の再改修となった。現在の切通路は、江戸時代に幾回にもわたって改修されたものであるから、もとは最も狭く高い位置にあったものと思われる」と記述されている。

『吾妻鏡』仁治元年十一月三十日の条に「幕府の会議で鎌倉と六浦との往還路を造ることを決定す」と記している。翌年の仁治二年四月五日の条では、「着工により、泰時みずから現場に臨んだ」。仁治二年五月十四日の条では、「泰時は再び現場に臨み人夫等に督励し、自分が乗ってきた馬を使用して土石の運搬に当たった」とあり、北条得宗家の並々ならぬ力のいれかたが分かる。

切り立った岩盤に囲まれ、急峻な坂道を登り下りする体験をしたことにより、鎌倉の中世武士の洞察力と力量を改めて認識させられたのが、今回の探訪の実感である。

※切通の名称は「神奈川県文化財目録 平成二年」（神奈川県教育委員会）にしたがった。

文／(財)はまぎん産業文化振興財団

藤原 勤一

\*参考文献 『国史大系吾妻鏡(吉川弘文館)』『太平記新編(新潮)』『神奈川県文化財目録(平成二年)』『神奈川県教育委員会』『大日本地誌大系新編(鎌倉) 巻七(雄山閣)』『鎌倉史跡事典(奥富敬之編)』『新人物往来社』『鎌倉の史跡(三浦勝男)』『鎌倉春秋社』『鎌倉市史(鎌倉市史編纂委員会)』『立原 幹と歩く(立原正秋の鎌倉)』『立原 幹(鎌倉)』『人物太平記の世界(海音寺潮五郎編)』(三笠書房)。

上／ゴージャスな雰囲気彩られた店内。中上／店先にはつねに季節を先取りした草花が並ぶ。中下／自作のフラワーアレンジメントを手にする鈴木さん。フラワーデザインスクールの講師も務める。下右から／オランダの風車の前で。アムステルダムのお店の花店「デロース」の店内で。垂直に構成するオランダ独特のフラワーアレンジメント。



海外派遣団員が語る②  
「花のある暮らし」の  
美しき、大切さを、  
身にしみて感じました。  
藤沢市下土棚 総合園芸センター進農園 鈴木孝紀さん



## 花屋の花がすべて売り切れる国

平成十年に、(財)はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加して、オランダとベルギーを視察してきました。

私は、祖父の代から続く長後(ちよご)市)の生花・園芸店に勤めて今年で五年目になります。前に勤めていた園芸関係の会社(株)サカタのタネ)で、約一年半ほど、カリフォルニアに出向した経験はありますが、園芸の本場というところ、やはりオランダです。施設栽培の技術も生産性の高さも、つねに世界

中から注目されている国です。一度は行かなければと思っていたところに視察旅行のお話があり、チャンスだと思つて応募しました。

オランダではアムステルダムの「デロース」という創業七十年の老舗の花屋を訪ねました。広い店内には斬新なデザインのフラワーアレンジメントが並んでいて、商品構成は生花と園芸が半々くらい。花束は二五〜三〇ギルダー(一六〇〇円〜二〇〇〇円)が売れ筋というものでした。日本より二割ほど安く売られています。しかし、話を聞いて驚いたのは、こ

の店では仕入れのロスがなんと一パーセントだということです。ほとんどを売り切ってしまうのです。

在オランダ十六年のオケモトさんに聞いた話では、オランダでは金曜日にみんなが花を買いに行くので月曜日は花屋の店頭の花がないということでした。信じられない話です。

## 花のもつ力を効果的に発揮

オランダでもベルギーでもそうですが、街中、そこかしこに花屋があります。花屋でなくとも、ウインドー・ディスプレイに花を利用している店が目

上右/地元下土棚の守り神が発祥という白山神社。上左/江戸時代には宿場として栄えた長後商店街(旧滝山街道)。中/仙元塚。富士山爆発時の火山灰を集めて造られたという塚で、富士塚とも呼ばれる。右下/「花のお寺」として名高い常泉寺。「訪れる人がいつでも花を楽しめるように」と、四季折々の花を絶やすことがない。左下/横浜銀行長後支店。



につきます。生花であれ、ドライフラワーであれ、花の効果が十分に発揮され、街の雰囲気を引き立てています。花束を抱えて歩いている人も目につきませんが、だれひとり振り返ろうともしません。暮らしのすみずみに花があるのは、ごく日常的な風景なんです。それに、この国の小学生は入学すると学校からゼラニウムの鉢を渡され、家で世話をするという話を聞きました。そういう子どもたちの中から園芸の道を志す若者が出てくるのです。この国では、花屋の店員のプロ意識が強いのも当たり前なんです。

自分の暮らす街にうるおいをこの視察旅行は、見たこと、聞いたことが、うらやましいことばかりで、ずいぶん刺激になりました。第一に、花のプロとしてのレベルを上げること。そして、なによりも仕事をとおして「花のある暮らし」を提案してゆくことの大切さを痛感しました。そのためには、待っているだけではだめだと思い、自分が売りたいと思う花を目立つ場所に置くなど、店内ディスプレイを一新しました。自分の身近に花がある。それだけで心が豊かになり、

ひいては、自分の暮らす町にうるおいをもたらすことにもなる。そのことを、あらゆる機会を通して、お客さんに伝えていきたいと思っています。

長後は、古い歴史を秘めた町です。中世には城が築られました。駅前商店街は江戸時代には宿場でした。戦後は、都市近郊の住宅地として発展して、ずいぶんと変わりましたが、実は誇るべきものがたくさん残されている町です。生まれ育って、当たり前のように感じていた町の風景が、少し違って見えてきたのも、オランダやベルギーへ行ったおかげです。(談)



総合園芸センター・進農園・長後本店・藤沢市下土棚517小田急線長後駅西口下車徒歩1分  
☎0466(4)0037 営業は9時~19時  
休業は火曜日。  
鈴木孝紀(すずきたかのり) ●昭和42年生まれ。大学卒業後、懐サカタのタネを経て、現在は進農園の種苗部園芸部、生花部の取締役を務める。商品販売とともに、フローラルデザイナーとして活躍。

※訪はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として平成元年より神奈川県内の商業従業者の方を対象に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を視察する機会を提供しております。

## ホール

〈はまぎんホール ヴィアマールからのお知らせ〉

## ハーブの光と影

「ハーブの演奏と詩の朗読による瞑想の時間」

はまぎんホール ヴィアマールでは、ニューイヤークンサートとして、

日本を代表するハービスト吉野直子さんと作家島田雅彦さんをお迎えします。華麗なハーブの音色と叙情あふれる

詩の世界を、この機会にこそゆくまでお楽しみください。

日時●平成14年1月12日(土)

15時30分開演(開場15時)

チケット●一般 2,800円

学生(小中高大学生) および60歳以上  
2,500円(全席自由)

チケット前売販売

●チケットぴあ

●相鉄ジョイナスプレイガイド

●高島屋横浜店6階チケットショップ

●區民ホールチケットセンター

●サウンドポート

☎03(5237)9990

☎045(319)2456

☎045(311)5111

☎045(662)8866

☎045(243)9999



ハーブ：吉野直子



朗読：島田雅彦

●はまぎんホール ヴィアマール  
横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店1階  
☎045(2225)2173  
交通●桜木町駅「JR線・東急東横線 横浜市営地下鉄線」  
下車一動く歩道利用15分  
<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>

## 年金

〈はまぎん〉からのお知らせ

## 「年金」電話相談サービス(無料)のご案内

年金制度や年金請求の手続き方法など、

年金に関する疑問に何でもお答えいたします。

お気軽にお電話でご相談ください。

**土・日曜日も受け付けております。**

なお、毎週二回実施している

「年金教室」のお申し込みも承ります。

また、年金に関連した雇用保険制度、

健康保険制度についてのご相談もお受けできます。

〈はまぎん〉年金デスク  0120(334)089

●相談受付日

毎日。(ただし、祝日、12月31日～1月3日、

5月3日～5日は休業させていただきます)

●相談受付時間 9時～17時

## 編集後記

春夏秋冬、大勢の方々が「古都鎌倉」の地を訪れます。神社仏閣、史跡の数々等の歴史資産と、海と山及び四季の花々が織り成す絶妙なハーモニーに魅了されるためでしょう。

鎌倉は、「世界文化遺産登録申請」に向け、活発な動きを展開しています。

今回、当財団では城塞都市の一郭をなす「切通」を特集いたしました。小誌をご覧いただき、新しい鎌倉発見の糸口にしていただければ誠に幸いです。

最後に、取材に当たり鎌倉市を始めとしてお世話になりました関係各位に深く感謝申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団  
事務局長 清水照雄



朝夷釜切通付近の古道